

2 特徴的な作業

演習問題は 20 頁程度の問題用紙（片面印刷）によって構成されていることから、配布されたままの形式では効率よく解答することが難しい。そのため、問題用紙をホチキスによって綴じ直す作業を行う受験生が大半となる。

一般的には問題用紙の白紙面を背中合わせにするブック形式に綴じ直す人が多いが、片面のまま綴じる方法も考えられる。どちらにせよ、資料の中で使用頻度が高い、取引事例に関する頁や、建設事例に関する頁は参照しやすいように別にしておくことが通常である。

3 電卓

演習問題の解答には電卓を用いる。なお、関数電卓を使用することは認められていない。

電卓は必ず 12 桁のもので、自分が入力しやすいサイズ（一般的には手のひらより少し大きい程度のサイズ）のものを用意する。注意しなければならないのは、電卓の性能によっては試験の解答に必要な入力速度に耐えられない点である。各自の電卓を入力する速度によるが、安価な電卓に搭載されている一般的な早打ち機能程度では、正確な数値が計算できない場合が多いので十分注意してほしい。

なお、電卓の入力にある程度慣れておかなければ入力ミスをしたり、十分な速度で入力できなかつたりすることが考えられるので、普段の学習から（スマートフォンの電卓等を用いずに）電卓を用いて解答する必要がある。その一方で、普段の学習時においてはテキストに記載の問題文を目で追うことによって、解答の道筋を頭で思い浮かべる学習方法を採用することが最も効率的である。そのため電卓に慣れることと学習の効率性の間にトレードオフが生じる。